

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2870700800		
法人名	有限会社 日本健康管理システム		
事業所名	グループホームたんぼぼ		
所在地	兵庫県神戸市須磨区高倉台6-14-20		
自己評価作成日	平成25年5月2日	評価結果市町村受理日	2013年8月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai-go-kouhyou-hyogo.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	2013年6月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

須磨の山や公園が近くにあり、自然が豊かで静かな住宅地の中にある。近隣の道路沿いには住民による花壇があり、利用者様にとっても楽しめる散歩道となっている。ホームの庭の花壇や菜園を利用した屋外活動は、利用者様並びにご家族に好評である。女子寮の建物を再利用しており、比較的利用し易い料金設定になっている。畳床の居室は家庭的な雰囲気である。段差の多い建物内部だが、職員の見守りや声掛けによるきめ細やかな対応をしている。医療連携体制が整っており、隣接の同じ法人格の施設の看護師も含め、緊急時には速やかに看護師並びに主治医の協力が得られる。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山と森に囲まれ公園も近くにあり、自然豊かでうぐいすの声も聞ける静かな住宅地の中にある。有料老人ホームが併設され連携が取れている。女子寮であった建物を再利用し、浴室、トイレ等段差や狭さもあるが、職員の見守りで利用者は普通に生活している。料金設定は比較的利用しやすく、安心して暮らせるホームを目指している。事業所は権利擁護を重要視し、研修や日々の実践の積み重ねで職員の自覚を促すよう努めている。住民向け研修会等の会場として1階談話室を開放し、地域の人々に参加を呼びかけ、又地域で必要とされる活動や役割を今後も続けるなど、地域との関わりを深めるための働きかけを期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

[H25グループホームたんぽぽ1F]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の関わりを大切にしたい理念の下、毎年のフロア目標にもその実践を揚げ、地域との関わりに繋がる具体的なケアの実践に努めている。	「ゆっくり 一緒に 楽しく」の理念をフロア目標に掲げ、職員は常に理念を意識し共有している。利用者の生活する場として自立に向けた支援で、職員の手を貸しすぎた対応に対しては理念にたちかえって実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入して地域の一員として交流している。清掃活動には利用者様や職員も出来る限り多数が参加し、人手不足を補い、顔馴染みの交流ができています。	自治会に加入。北公園清掃のお知らせには利用者職員が多数参加し、住民と交流ができています。しかし、他の案内は得にくく、職員が買物に出かけたスーパーで子どもみこしのチラシが貼ってあるのを見て、今年は見に行くことにしている。中・高校生の体験ボランティアを受け入れている。	地域のニーズを把握し、地域で必要とされる活動や役割の機会に事業所を開放するなど、一人でも多くの住民と交流できる窓口としての取組みを積極的に始められてはいいか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方や民生委員の見学、ワークキャンプ等の折に認知症及び支援の方法について話したり、相談や質問を受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で出された意見はフロア会議等で検討し、ケアの参考にしている。特にリスクに関する報告の際に出される要望並びにアドバイスは有意義である。	利用者、家族、地域包括、有識者、施設代表、事業所代表が出席で定期的に開催。事業所の現状報告と他県のグループホーム火災、ヒヤリーハット事例並びに苦情処理等を議題に参加者間で話し合っている。地域包括や他事業所からの意見・情報は家族にとっても貴重で、出された意見はサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市及び区の担当者とは必要に応じ日頃から連絡をとっている。特に保護課とは生活保護の関係で密に連絡をとっている。また、研修等の情報も得て参加している。	事業所として必要な情報を提供し、書類などに関することなどは必要に応じて相談している。保護課とは生活保護の利用者が多いことから、市担当者との連携は日常的にとれている。研修等の情報も得て参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新任研修及び年間研修にて理解を深めると共に、日頃の話し合いや会議の場でも身体拘束をしないケアへの取り組みについて理解を深めるよう努めている。	新任研修では必須事項とし、現任研修でも随時社内研修を行い周知徹底している。昨年事業所外徘徊の事例が発生し探し回った。運営推進会議に諮り、安全に配慮して職員がゆったりした介護ができるよう、玄関の錠は職員の配置状態と利用者の状況により日中施錠することがある。	利用者の立場に立つての閉塞感軽減のため、施錠が日常的にならないように職員の見守りを工夫する等の検討を望みたい。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	組織内外の研修、報道事例、市や県の集団指導など、あらゆる場から学ぶ姿勢を持ち、日頃の言葉使いなどのケアを振り返り、虐待防止の意識を強めている。	高齢者虐待防止法について、職員研修や報道事例で外部の虐待にも関心を持っている。管理者は職員のことばかけにも注意して必要に応じて助言を行い、ストレスや抱え込みも配慮し、利用者が安心して生活できる対応を大切にしている。	

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	組織内外の研修で学んでいる他、入居相談の際にも資料を基に制度を説明している。入居後も必要に応じてご本人が制度を活用できるように支援している。	職員は権利擁護について組織内外の研修で学び、制度内容や必要性においても理解している。現在、該当者がいるため実際の事例として身近に学ぶ機会がある。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の見学・面談時に入退去条件、利用料金等を説明し不安や疑問に答えている。契約時には契約から解約までを重要事項説明書を中心に説明し、理解・納得を得ている。変更の都度説明し、理解を得ている。	重要事項説明書を中心に、入退所の条件、利用料金等、管理者が時間をかけて説明している。見学をしてもらい、事業所の環境を納得の上での入居につなげている。料金改定時には変更の都度説明し、理解納得を得ている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	気軽に意見・要望が表せる雰囲気作りに努めている。面会時の会話、ご意見箱、運営推進会議やアンケートなど、ご本人、ご家族等の意見を伺う機会を大切にし、運営に反映させるよう努めている。	運営推進会議での出席家族との意見交換以外に、普段の面会時にも個別に時間を設け相談も兼ね話しをするようにしている。運営推進会議の案内状や市に提出する議事録も開示し、透明性を大切にしている。意見を伺う機会として利用者向き・家族向きのアンケートを実施し、運営に反映させるよう努めている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者への報告は定期的あるいは随時に行われている。管理者はフロア会議、送り等の日常業務の中でも意見や提案に耳を傾け、運営に反映するよう努めている。	管理者は毎日の申し送りやフロア会議に出席し、日常業務の中での職員の意見や提案を聞き、休憩時間が取りにくい、役割分担を平等に、記録簿を少なくしよう、服薬は口にするとこら迄見届け等、出された意見を運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者を含めた会議・報告書その他で、代表者へは報告がなされており、職場環境・条件の整備が図られている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員には法人内外の様々な研修を受ける機会が設けられており、シフトの調整などで機会の確保が図られている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケアマネ会、グループホーム連絡会には管理者や職員が参加し、勉強会、相互訪問などの交流で得られたものをホームでのケアに活かすよう努めている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の生活リズム、習慣、嗜好などを把握し、支援に活用している。特に帰宅願望や戸惑いに関しては時間をかけて耳を傾け、不安が解消されるような関係作りに努めている。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学や面談の際には、家族様等の不安・要望・疑問などを伺い、納得や理解が得られるように努めている。入居初期には出来るだけ面会を促し、職員は家族様等の話を聴く様努めている。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談等で、ご本人やご家族等には他のサービス利用も含めて説明し、グループホーム入居について説明している。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の生活の場であることを念頭に、掃除、洗濯物たたみ、野菜の下ごしらえ、花のみずやりなど、それぞれの方に応じた日課活動を一緒におこなっている。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りで近況報告を行っている他、行事や会議の参加・電話・面会・外出・外泊などご家族等の絆を大切にしている。一緒に野菜を植えたり、散歩などホームの日課を共に支えてくださるご家族もおられる。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の知人・近隣の人たちも面会に来られている。ご家族の協力を得て馴染みの場所に外出される方もいる。また、馴染みの場所や人を話題にすることで安心される方もおられる。	馴染みの関係ある人や、近所づきあいのあった人などの継続しての来所を促している。2~3か月に1回、顔見知りとなった美容師の訪問があり、利用者はカットを楽しみとしている。職員は利用者の関係維持に関し常に意識を持って接し、馴染みの活動が継続できるよう支援している。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事などの日課やレクでは、利用者様同士が互いに関わりあえるよう支援している。相性にも配慮し、必要に応じ職員が関わり合いに介入し孤立やトラブルを防ぐよう努めている。		

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、必要に応じて相談や支援に努めることを家族様には伝えている。退去後も退去先の関係者から相談を受けたり、家族様の問い合わせに応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望や意向が把握できるような関わりを大切に、希望や意向はケアプランに反映するよう努めている。意向の把握が困難な方については、本人本位の支援計画を検討している。	その人らしい暮らしを日頃の関わりの中で把握、笑顔での生活の継続ができるように努めている。利用者の話をゆっくりと聞き、「ここで働きたい(男性)、家族と同居したい、新聞購読したい」等の意向を聞き、さらに表情やしぐさにも注意し、できることはケアプランや日々の活動に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際に生活歴・習慣・サービス利用の経過等の情報提供を受けるが、日頃のコミュニケーションを通して把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方には個人差、その時々的心身の状態などによって変化が大きい方もおられる。日々の関わり、申し送りやカンファレンス等で現状の把握に努めている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画について直接ご本人やご家族等と話し合うことが出来る方もおられるが、出来ない方もおられる。必要に応じて主治医や受診専門医師の意見を参考にしてしている。	ケアプランの原案は、家族・主治医の意見を参考にして計画作成者が作っている。見直しは3か月に1度。介護日誌にプランをファイリングし、現状に合ったプラン作成を心がけ、プランに沿った実際の介護を提供できるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアは3回に分けて記録し、健康面の情報は別途記録している。申し送り・カンファレンス等で共有した情報は、検討し、実践や介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族等の状況に応じ、その時々々のニーズに求められる柔軟な支援には出来るだけ対応するように努めている。		

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源は十分に把握・活用出来てはいないが、地域の方々との交流を深めつつある。運営推進会議や同業者の会議を通して地域資源の情報が得られる。公園や花壇は利用者様の屋外活動の場となっている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご本人及びご家族等の希望によるかかりつけ医を決めている。定期的な内科往診に加え、専門医の受診やその都度の専門医による往診も支援している。	入居時に利用者や家族に確認しているが、月2回の訪問診療とともに、24時間医療連絡・相談が可能である内科協力医を全員が選択している。歯科医は週1回の口腔ケアと義歯作成も可能であり、皮膚科医は必要に応じての訪問である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間の医療連携体制を整えており、常に連絡が取れる体制をとっている。定期的な看護師の訪問があり、利用者様が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーを中心に情報提供をおこない、かかりつけの往診医からの情報提供もある。入院中や退院時にも必要に応じ、ご家族同席のもと担当医、看護師、相談員等との話し合いの場を設けている。	入院の際は、介護・診療情報を提供し、利用者の適切な治療につなげている。利用者の安心のため職員が見舞いに行き、家族への治療方針説明時には管理者が同席している。退院の目途が立てば、利用者にとっての適切な介護について家族と話し合い、受け入れ態勢を整えている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居後早い段階から重度化した場合や終末期のあり方について、かかりつけ医を交え、ご本人・ご家族等と話し合いの場を設け、方針を共有している。また、方針の見直しや確認も必要に応じおこなっている。	契約時に24時間医療連携体制であることを説明し、「看取りの指針」に同意書をもらっている。状態変化時には、医師を交え家族と改めて具体的な話し合いを行い、終末期対応に関して確認し合っている。職員は家族の意向を尊重し、利用者が安心して最期を迎えられるような介護に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は緊急時の対応マニュアル、法人内外の研修で学び、実践に活かせるよう努めているが、全ての職員に対し十分に訓練が出来ているとはいえない。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の昼間及び夜間の消防訓練の他、避難袋の設置や担架搬送など、利用者様の避難誘導方法を訓練している。運営推進会議を通して近隣住民への訓練参加を呼びかけている。	夜間想定も含め年2回の消防訓練を実施。その他年1回自主避難訓練を行い、避難経路の再確認、個別の避難袋点検やマニュアルに沿った担架の作り方等を練習している。災害時の近隣住民の協力依頼に関しては、運営推進委員会等で話題にしている。	災害時の近隣住民の協力は心強いことである。日頃から事業所への関心と理解を深めてもらい、運営推進会議の議題などを少しずつ具体化されてはいかがか。

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職業倫理や接遇の研修で人格を尊重した支援を学ぶと共に、日頃から自尊心を傷つけない言葉かけや対応を心掛けるなど、職員同士意識の向上に努めている。	利用者への声掛けは親しみと節度のバランスを取り、利用者の誇りやプライバシーを損ねないように確認合っている。特に排泄誘導時等には、利用者の気持ちに添ってさりげなく対応することに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の希望や意思決定は大切にしているが、声掛けが指示的なニュアンスを含んでいる時もある。ゆっくりと利用者様のペースに合わせた働きかけで自己決定や希望を引き出す支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にした暮らしを支援するよう努めているが、入浴や外出など職員の都合で希望にそって支援できない時もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は大部分が入居前のもので揃えてあり、それぞれの方の馴染みのものである。ご自分で選んで頂くなど、その人らしいおしゃれを支援している。訪問美容が定期的にある。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の出来ることに応じ調理準備に参加して頂くよう努めているが、参加される方は限られている。調理中の会話などで食事を楽しみにももらえるよう支援している。配膳・下膳が習慣となっている方もおられる。	食事メニューは法人共通で食材が配達されるが、調理は利用者との会話を通して独自の工夫を取り入れている。利用者のメニュー等への希望は本部に連絡し、反映されるよう努めている。職員も同じものを食し、食事中は和気あいあいの雰囲気であった。外食は家族の協力を得ている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分摂取量はチェック表にて把握している。一人ひとりの状況に応じ、ミキサー食、刻み等食事形態、摂取時間や量の配分も変えるなど柔軟に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケア支援に加え、週に一回歯科往診にて口腔内及び義歯のケアがなされている。		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を基に排泄パターンを把握し、声掛けや誘導により排泄の失敗を予防するよう支援している。	排泄自立で布パンツの人は18人中3人、誘導すれば失禁しない人は4人である。おむつで退院したが、その人独自の排泄パターンを把握して誘導した結果改善し、日常的に意欲を持って生活できるようになった利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況はチェック表で確認している。便秘には個々に応じた下剤が処方されているが、水分や食事の摂取量、活動状況にも注意して予防に努めている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来る限り希望に添った入浴を楽しんで頂くよう努めているが、勤務体制上時間帯が限られている。回数を増やしたり、好みの入浴剤を使用したりと、出来る範囲での希望に添った支援をしている。	浴槽は以前の女子寮のままであり、浴室や着替えのスペースは狭い。入居時に利用者や家族には見学して納得してもらっている。冬季は前もってお湯を十分いれて暖房するなど、職員の工夫と努力で少しでも気持ち良い入浴となるよう努めている。	現在シャワー浴のみの利用者は4人である。今後座位が取れなくなった利用者の快適な入浴のため、環境整備などが望まれる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣に合わせた入眠や起床の時間を支援し、体調や外出等その時々個々の状況に応じて休息の時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬につき、薬情報や医師の説明を基に理解して服薬支援するように努めているが、職員全員が薬の目的や副作用、用法や用量について理解できていない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、園芸活動、手先の器用さを活かした家事活動など、それぞれに応じた役割を支援している。嗜好に合わせた飲料や読書、人形遊び、散歩など気分転換等を支援している。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の協力が得られる方は毎週のように外出されているが、そうではない方のほうが多い。散歩や庭での屋外活動は日常的に支援している。遠足や花見といった行事では遠出の外出を支援している。	エレベーターはないが、1階での合同行事には職員の介助で車いすの利用者も参加している。道路の花壇を見に散歩に誘ったり、前庭の菜園の水やりなどできるだけ外気に触れられるよう支援に努めている。事業所の車がないので外出は家族の協力を得ているが、年間行事としての遠出には介護タクシーを利用して出かけている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人やご家族等の希望があればお金を所持して頂いている。所持されているお金での買い物の希望はないが、職員と一緒に買い物の機会はある。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればご家族に自らが電話をして頂いている。また、ご家族等からの電話は取り次いでいる。年賀状のやりとりを支援している方もおられる。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下には季節の壁面飾りや草花を飾り、談話室には季節の行事に合わせた装飾をしている。居心地よく、楽しい空間であるよう工夫している。	向かいが小高い雑木林の丘陵であり、鳥のさえずりや四季の移ろいを身近に感じられ、利用者は「楽しい」と発言された。建物内は全体的に明るく、1階の談話室や床の間付きの和室などで、利用者はゆったりと過ごせている。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では思い思いに過ごして頂けるよう配慮しているが、それぞれに応じた居場所が作れるようにテーブルや席を選んで頂いている。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には馴染みの家具や衣類を持ち込んで居室を仕つらえて頂き、馴染みの空間で居心地よく過ごして頂けるよう支援している。	居室には手作り作品やお気に入りの物等が置かれ、それぞれに個性的な雰囲気である。しかし、物を壊すなど認知症状が進んだため何も置かれていない居室があったが、利用者本人はリビングで洗濯物たたみなどを手伝い、職員の見守りと声掛けで穏やかに過ごされていた。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレ、浴室、下駄箱、身の回りの品などに分かり易く表示をし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるよう工夫している。		